

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

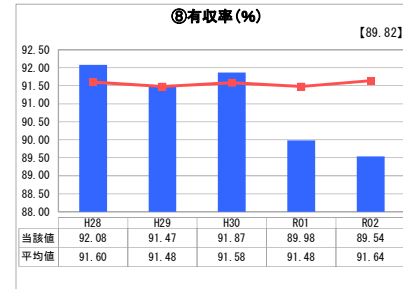
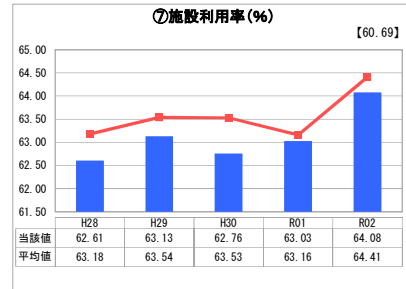
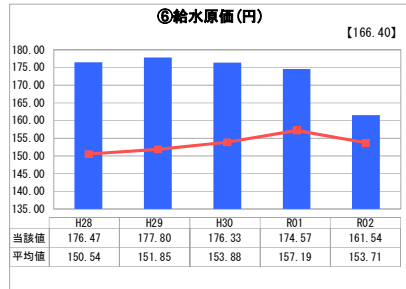
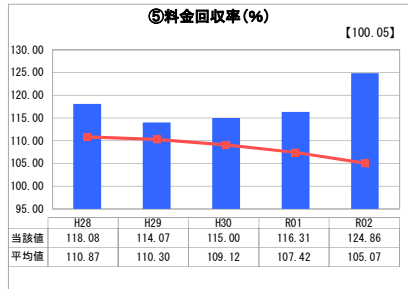
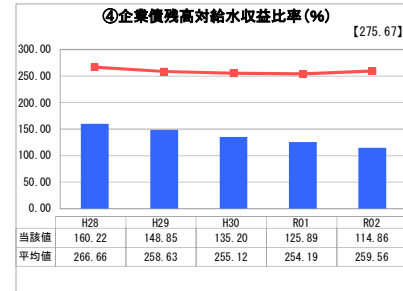
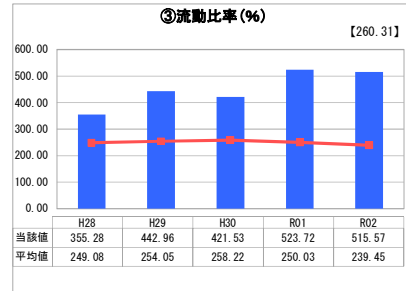
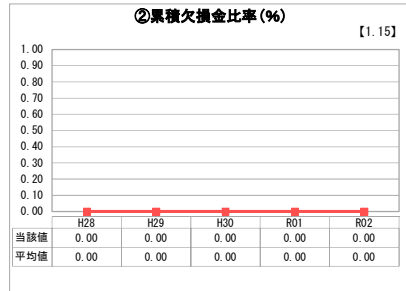
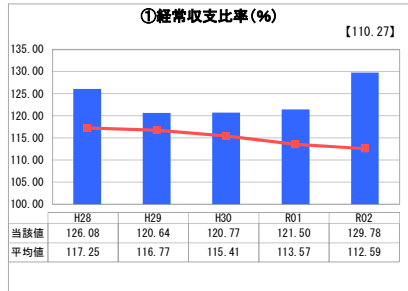
福島県 郡山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	85.74	98.96	3,212	

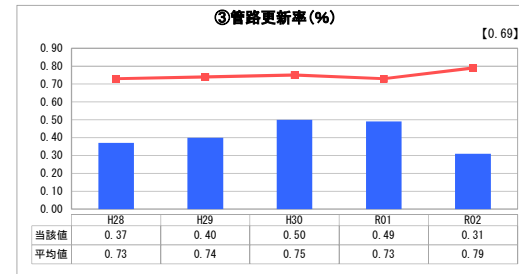
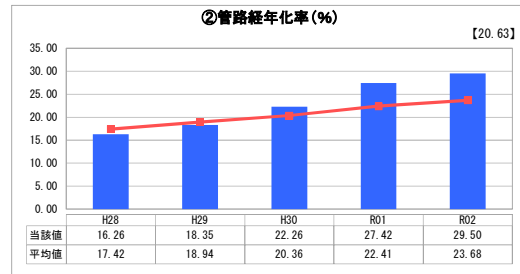
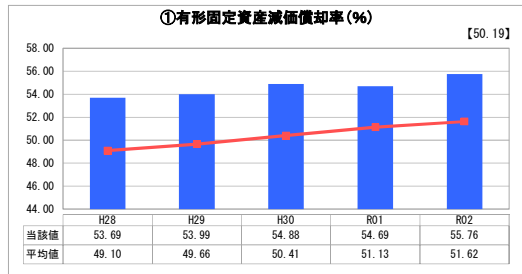
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
321,394	757.20	424.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
317,067	283.58	1,118.09

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 累積欠損比率  
令和元年度に旧豊田浄水場撤去事業が終了したため経常費用が減少し、前年と比べ増加した。比率は100%を上回り、類似団体と比べ良好な水準にある。また、これまで欠損金は発生していない。

③ 流動比率  
流動資産、流動負債ともに微増し流動負債の増加率の方が大きいため、流動比率は減少した。類似団体と比べ高い水準にある。

④ 企業債残高対給水収益比率  
企業債の償還に伴い減少傾向であり、類似団体と比べ低い水準にある。

⑤ 料金回収率  
平成29年度の料金改定に伴い低下したが、令和2年度では経常費用の減少に伴い料金回収率は増加した。類似団体と比べ良好な水準にある。

⑥ 給水原価  
経常費用減少に伴い給水原価も減少したが、類似団体を上回っている。これは給水区域が広く地形の起伏が多いことから、より多くの給水コストを要するためと考えられ、今後も維持管理費の縮減等の経営改善に努めていく必要がある。

⑦ 施設利用率⑧ 有収率  
施設利用率は、類似団体と同程度の水準で推移している。有収率は令和元年度から減少し、類似団体と比べ若干低い傾向にある。  
概ね類似団体と比べ良好な水準である。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
減価償却累計額の増加により上昇傾向にあり、類似団体と比べ高い水準にある。

② 管路経年率  
昭和40年代から昭和50年代に整備した多くの管路が法定年数を超えるため、今後も上昇傾向にある。平成30年度では初めて類似団体と比較して高い水準となり令和元年度からその幅が大きく増加しており、今後も同様の傾向が続く。

③ 管路更新率  
基幹管路を優先的に更新しているため管路更新延長が伸びず、類似団体と比べ低い水準にある。これらのことから、今後の老朽化施設の増加に対して、今後もアセットマネジメントの手法による長寿命化、事業の平準化を図っていく必要がある。

### 全体総括

現在の経営状況については、概ね健全な状況にあると考えられるが、今後は、人口減少・世帯構成の変化などの社会動態の変動や、節水型社会への移行による水需要の減少が予想される中、施設の老朽化の進行に伴い、施設の更新需要が増大していく。このことから、今後もアセットマネジメント手法による長寿命化、事業の平準化及び予防保全型維持管理による維持管理費用の縮減を図りながら、将来的な水需要に合わせた施設の統廃合(ダウンサイジング)や性能の合理化(スベックダウン)等により、効率的・効果的な更新・修繕を計画的に推進するなどの経営に努め、健全性を確保していく必要がある。